

岳父が総代だった頃

檀家総代 小島弥之祐

私は総代を依頼されてから十年足らずで、お話をできるような事はありませんので、総代だった岳父小島貞蔵（平成十二年に七十五歳で逝去）の話でもさせて頂きこうと思います。約四〇五十年前の話です。当時、法要は畠に正座で、足の不自由な方には苦痛な事でした。同じ総代の神林さんが「足が痺れて転んだ話」をされ、そこで他の総代とも図り、椅子形式にすることにしたのです。今でこそ普通に見られる光景ですが、当時は椅子での法要など無く、寺らしくないと言う方もいたほどでした。また畠も傷つくといけないので、絨毯も寄贈させて頂き、その上にパイプ椅子を並べて法事や葬儀を行うことにしたのです。

ところが、納入された椅子の背には、住職様のご配慮で我が家の先祖方の戒名のシールが貼られてあつたのですが、仏教の言葉の方がずっと良いと思い、直して頂いた経緯があつたそうです。仏教には「陰徳」という言葉があります。人が見ている所だとやるが見ていないとやらないというのではなく、見ていない陰でも誠実にやることが大事だということだそうです。仏教には人間を磨く為の様々な教訓があり、私も生きて行く上で沢山の教えを学ばせて頂きながら生活しております。

懐かしの写真 No.11



檀信徒会館から見える場所に、庭を作って頂きました。これは檀家の小山造園さんの作です。

（平成 24 年 6 月完成。）



こちらは、茶の間から見える庭で、檀家の島崎造園さんの作です。（平成 23 年秋完成。）



秋のお彼岸の片付け。10月初め。お供えされ枯れた墓花を袋に詰めワゴン車に乗せて捨てに行きます。（今はレンタカーの軽トラ使用。）



平成 25 年 1 月、雪の積もった朝本堂前。屋根の雪の重さで本堂の玄関の戸が開かなくなっています。



参道はこんな様子。消雪の水は出ますが、ご覧の通り残るのでスノーダンプで除雪をします。



平成 26 年 12 月。ブル通過後の道路の写真。寺の間口、約 50m をスノーダンプで人力で除雪します。